

難治性疾患克服研究の対象となっている121疾患について

主任研究者； 尾崎 承一

疾患名； 側頭動脈炎

1. 初代研究班発足から現在までの間の研究成果について（特定疾患の研究班が独自に解明・開発し、本研究事業として公表したもの。なお、原則他の研究事業等に依存していないもの。）

（1）原因究明について（画期的又は著しく成果のあったもの）

	時期 及び 班長名（当時）	内容	備考
1	なし		
2			
3			

他の研究事業と分離不可の場合は、不可としその理由を簡単に記載してください。

（2）発生機序の解明について（画期的又は著しく成果のあったもの）

	時期 及び 班長名（当時）	内容	備考
1	平成 17 年 尾崎承一	血管炎アトラスを作成し、病理と臨床所見を検討した。	
2			
3			

他の研究事業と分離不可の場合は、不可としその理由を簡単に記載してください。

(3) 治療法(予防法を含む)の開発について

ア 発症を予防し、効果があったもの

	時期 及び 班長名(当時)	内容	備考
1	なし		
2			
3			

他の研究事業と分離不可の場合は、不可としその理由を簡単に記載してください。

イ 完治に至らしめることはできないが、進行を阻止し、効果があったもの

	時期 及び 班長名(当時)	内容	備考
1	平成16年度 尾崎承一	ステロイド治療を早期に開始することが視力予後の改善に重要であるため、早期発見、診断への啓発活動の一貫としてアトラスの作製配布を行った。	
2			
3			

他の研究事業と分離不可の場合は、不可としその理由を簡単に記載してください。

ウ その他根本治療の開発について

	時期 及び 班長名(当時)	内容	備考
1	なし		
2			
3			

他の研究事業と分離不可の場合は、不可としその理由を簡単に記載してください。

2. 「1」以外で、国内、国外を問わず、研究成果の現在の主な状況について

(1) 原因究明について(画期的又は著しく成果のあったもの)

	時期	内容	文献
1	平成 11 年	側頭動脈炎におけるパルボウイルス B19 感染の関与	Arthritis Rheum. 1999;42:1255
2			
3			

(2) 発生機序の解明について(画期的又は著しく成果のあったもの)

	時期	内容	文献
1	平成 7 年	CD4+T 細胞が血管の炎症に関与	Arthritis Rheum. 1999;42:844.
2	平成 16 年	CD83+樹状細胞も血管炎発症に関与	J.Exp.Med 2004, 199:173
3			

(3) 治療法(予防法を含む)の開発について

ア 発症を予防し、効果があったもの

	時期	内容	文献
1			
2			
3			

イ 完治に至らしめることはできないが、進行を阻止し、効果があったもの

	時期	内容	文献
1	昭和 50 年- 平成 13 年	側頭動脈炎に対する副腎皮質ステロイドの有効性	Ann Inter Med 1975:82,613 BrJ Rheumatol 1992:31:103 Br J Ophthalmol 2001.85:1061
2			
3			

ウ その他根本治療の開発について

	時期	内容	文献
1			
2			
3			

3 .現時点において、次の事項について残された主要な課題及び今後の研究スケジュールについて

(1) 原因の解明について

	課 題	解決の可能性	今後の研究 スケジュール
1	CD4+T 細胞の認識する抗原	広く研究されている	不明
2			
3			

(2) 発生機序の解明について

	課 題	解決の可能性	今後の研究 スケジュール
1			
2			
3			

(3) 治療法（予防法を含む）の開発

	課 題	解決の可能性	今後の研究 スケジュール
1	免疫抑制薬の最適の治療法	種々試みられている	試行中
2	アスピリンの可能性	十分あり	試行中
3			

4. 重症化防止対策について

大多数の患者に対して外来通院によって症状のコントロールが可能な治療法（重症化防止のための治療法）の確立

	重症化防止のための治療法確立について解決すべき課題	5年以内に解決できる可能性	解決不可能な場合の理由	左記理由を解決していくスケジュール
1	失明の回避	早期ステロイド加療で回避可能		
2				
3				
4				
5				